

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 79人

② 算数 79人

5 留意事項

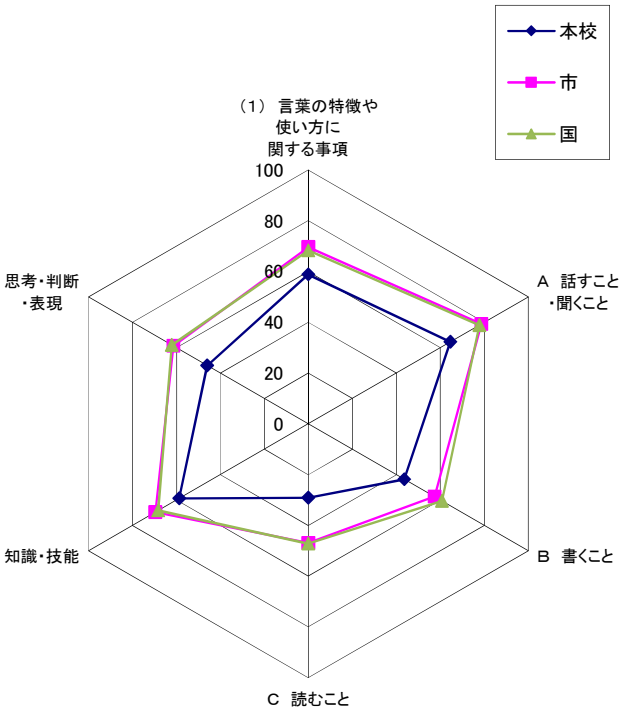
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	58.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	64.5	78.7	77.8
	B 書くこと	43.6	57.3	60.7
	C 読むこと	29.1	46.9	47.2
観点	知識・技能	58.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	46.0	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

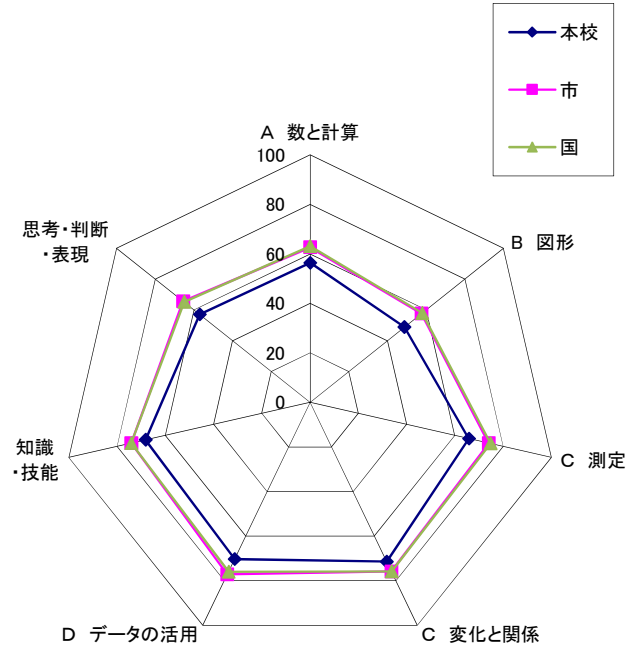
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○熟語を漢字で書く問題では、誤答の割合が全国の平均を下回った。また、思考に関わる語句の使い方をを選択する問題では、全国と同程度の正答率であった。 ●漢字を書く問題では送り仮名のある漢字の正答率が、全国の平均を大きく下回った。また、主語と述語や修飾語と被修飾語の関係を捉える問題でも、正答率が全国の平均を10ポイント以上下回っている。	・学年に配当されている漢字を定着できるようにするために、朝の学習や授業の初めなどに漢字の書き取りを行うなどの工夫をしていく。また、日常的に文章の中で適切に使うことができるようにするために、意識して漢字を使うよう指導していく。
A 話すこと・聞くこと	●スピーチの構成や内容、資料の活用に関しての問題では、いずれも正答率が全国の平均を下回っている。	・朝の会のスピーチや授業の振り返り、行事の後の感想文など、自分の考えを文章に書き表す活動を行う。
B 書くこと	●文章の構成として適切なものを選択する問題や資料を基に自分の考えを書き表す問題では、正答率が全国の平均を下回っている。記述式の問題に関しては無解答率が19.2%と高い。	・説明文の一部や感想文などの視写を継続して行い、正しい文章構成や表現に慣れさせていく。また、記述式の問題に課題が見られることから、内容について文章でまとめる学習を継続することで、自分の考えを書き表す力を高めていきたい。
C 読むこと	●説明文を読み、内容について問われる問題についてはいずれも正答率が全国の平均を下回っている。特に、要約して書く問題では、無解答率も16.7%と高い。	・国語科の説明文の単元では、文章全体の構成が把握できるように、構成図を書くという指導を継続していく。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	56.4	62.6	63.1
	B 図形	48.7	57.5	57.9
	C 測定	65.8	74.1	74.8
	C 変化と関係	71.4	75.8	75.9
	D データの活用	70.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	68.2	74.1	74.1
	思考・判断・表現	57.0	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○余りのある除法において、余りの扱い方を正しく判断している児童の割合が全国平均よりも高い。日常生活との関連を意識した指導の成果だと考えられる。 ●基準量と比較量の理解に課題が見られる。「理由を説明する」という問題について無解答の割合が高い。	・基準量を1としたときの比較量が少数で表される場合のイメージがしにくいのが原因の1つと考えられる。数直線や図を用いて視覚的に量を捉える工夫をしていきたい。また「～をもとにする」などの言葉にもなれることができるよう、具体物を使って示すなど、言葉の意味を実感を伴って理解するなどしていきたい。
B 図形	○直角三角形の面積を正しく求めることができる児童の割合が全国平均よりも高い。 ●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述する問題では、全国平均よりも低い結果になっている。	・三角形の面積の求め方は公式として児童に定着しており、正しく計算ができているが、式の意味まで理解できていない児童が多いと考えられる。知識の詰め込みではなく、児童に考えさせる活動をさらに充実させ、論理的に考える力を身に付けさせる必要がある。
C 測定	○複合図形の面積について、いくつかの三角形に分けて考えることを理解している児童の割合が高い。 ●正しい時刻を答える問題では、全国平均よりも正答した児童の割合が10ポイント以上低い結果となっている。	・面積の計算では、繰り返し多様な問題にふれることで、一層の定着を図ってきたい。 ・何分後、何分前の時刻を求めることは2年生時に学習をしている。既習の内容について授業の中でふれたり、日常生活の中でも意識させたりする工夫をしていく。
C 変化と関係	○速さと道のりを基に時間を正しく求めることのできる児童は全国平均とほぼ同じ割合で、高い正答率になっている。 ●速さを求める式の意味について考える問題では、全国平均よりも低い結果となっている。	・道のり、速さ、時間を求める式を立てることは定着していると考えられるが、なぜその式になるのかまで理解できていない児童が多いと考えられる。 ・日常生活の場面に置き換えたり、数直線などの図を使ったりしながら、速さの意味について丁寧に理解させていく必要がある。
D データの活用	○棒グラフの読み取りについての問題では、全国平均よりも正答率が高い。 ●帯グラフの読み取りについての問題では、全国平均よりも10ポイント以上低い結果となっている。	・「割合」の単元では、基準量と比較量を基に、割合を求めるような計算の学習に重きを置いていた。帯グラフや円グラフの学習でも、割合を求めグラフをかく学習が多い。かくだけではなく、グラフの数値を読み取り、それを活用する問題や経験にふれさせる活動をしたい。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「算数の勉強は好きですか」に対しての児童の肯定的回答は県の割合より11ポイント高い。「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対しての児童の肯定的回答は89.9%で県や全国の割合よりも高く、特に全国より5.3ポイント高い。「算数の勉強は大切だと思いますか」に対しての児童の肯定的回答は94.9%と高い。このことから、算数の学習に対する関心が高く、授業が分かると実感できている児童が多いことが分かった。今後も、習熟度別学習を継続し、分かる授業の展開や個に合ったきめ細やかな指導を心掛けていきたい。また、計算の反復練習などを継続し、基礎基本の充実を図っていき

●「国語の授業では目的に応じて自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしていますか」に対しての肯定的割合は49.1%と低い。「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いた表現を工夫して書いたりしていますか」に対しての肯定的回答は58.2%と低い。このことから、児童が自分の考えをもち相手に伝えるように話したり、文章に書いたりすることに苦手意識をもっていることが分かった。今後は、授業の中でペアやミニグループでの話し合いの場を設けたり、目的に応じて自分の意見を理由を付けて書いたりする学習を取り入れ、国語の授業だけでなく、学習活動全体で児童が自信をもって表現できるよう、取り組んでいきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どれくらいの時間、勉強をしていますか」に対しての児童の回答では、学校で勤めている60分以上の学習時間に取り組んでいると回答した児童は67.1%である。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答は76%であった。このことから、家庭学習のヒント集や強化週間などの取り組みにより、自主学習に毎日取り組める児童が増えてきているのが分かった。しかし、約30%の児童は、目安の時間に取り組めていなかったり学習習慣が定着していなかったりすることも分かった。今後は、家庭学習の充実が図れるよう、取り組みを紹介したりヒント集をさらに活用したりして中学校へ向けて自主的に学習できるようにしていきたい。

宇都宮市立横川西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・家庭学習の習慣化に向けた取組	・「家庭学習のヒント集」を配付し、家庭学習に取り組む力を定着させる手立てや大切さについて指導している。また、年5回の強化週間を実施し、その都度、家庭学習の見直しを行い、習慣化を図っている。	・「学校の授業時間以外に1日当たりの勉強時間」について肯定的に回答した児童は67.1%であった。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は76.0%と、県の割合より2.3ポイント下回っている。
・学習内容に応じた学習形態の工夫	・算数の授業での習熟度別学習、朝の学習でのT.Tを実施し、児童一人一人に応じたきめ細やかな指導を計画的に行っている。	・「算数の勉強は好きか」という設問に対する肯定的回答は、78.2%と県の割合より11ポイント高い。「算数の授業の内容はよく分かる」の肯定的回答は89.9%で県や全国の割合よりも高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語「書くこと」「読むこと」への苦手意識 ・記述式問題や短文の穴埋め問題などでの無解答の割合が高い	・授業中のまとめと振り返りの工夫 ・音読指導の改善	呼応表現や常体・敬体をそろえて書くということを低学年から繰り返し指導することで意識を高めた。また、文章の構成をつかめるようにするため、一文一文に意味があるという意識が必要である。授業中や宿題での音読を繰り返すことで、文章を構成する一文、一段落を意識させていきたい。